



日本も感染者数が増え、第2波か？といわれていますが、政府は、感染予防を呼びかけながら、7月22日『GO TO』キャンペーンをスタートさせたように、経済に重きを置き、対策を講じることをしません。今後感染者はさらに増加する恐れがあり、行政も医療機関も対応に追われていくことでしょう。

今回は、PCR検査や抗原検査、抗体検査、治療薬、ワクチンについて考えてみたいと思います。

## 1:「PCR検査」「抗原検査」「抗体検査」の違い

新型コロナウイルスの感染の有無を調べる代表的な方法は次の三つがあります。

|       | 目的          | 検体を採取する部位     | 調べる対象             | 精度                 | 判定にかかる時間 |
|-------|-------------|---------------|-------------------|--------------------|----------|
| PCR検査 | 現在、感染しているのか | 鼻、のどの粘液、喀痰、唾液 | ウイルスの遺伝子          | 正しく陽性と判定する感度は70%   | 1～5時間    |
| 抗原検査  | 現在、感染しているのか | 鼻、のどの粘液、喀痰、唾液 | ウイルス特有のタンパク質      | PCR検査に劣る           | 30分～1時間  |
| 抗体検査  | 過去に感染したのか   | 血液            | 体内に入ったウイルスを認識する抗体 | 検査機器によって精度にばらつきがある | 1時間以内    |

(山陽新聞 digital 8月3日配信参考)

**PCR検査**は、3月6日より医療保険が適用され、民間でも検査が可能となりました。当初は鼻咽頭拭い液からの検体採取のみでしたが、研究結果が示されたため、6月2日症状発症から9日以内の者については唾液による検査が可能になりました。しかし、PCR検査の感度は70%程度と言われており、「陰性」の判定が「感染していない」ことにはなりません。インフルエンザに比べて、1/100～1/1000と言われるウイルスの少なさが判定を難しくしているそうです。現実的に感染者確認には、PCR検査しかありません。



「陰性」の人が何回も検査を受けて「陽性」になったケースもありますね。

**抗原検査**は、承認後当初は、検査キットで陽性の場合には確定診断となる一方、陰性の場合には再度PCR検査が必要でしたが、調査研究の結果、発症2日めから9日以内の有症状者については、PCR検査の結果と一致率が高いことが確認され、確定診断に使えるようになりました。

**抗体検査**は、ウイルスに対する抗体を持っているかどうかを調べます。現在、様々な抗体検査キットが研究用試薬として市場に流通していますが、「医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）」上の体外診断用医薬品として国内で承認を得た抗体検査はありません。



抗体検査は過去の感染を知ることにはできるけど、感染初期の検査は正しい結果が出ないって。

里見宏さんは、2020年4月12日に厚労大臣に「新型コロナウイルスの感染対策を科学的に支えるために、簡易抗体検査キットを使い、無作為に抽出した協力者の抗体検査を実施すること」を申し入れされています。PCR検査などで確定診断された患者以外の無症状～軽症者の割合を把握する上では、長期間陽性が続く抗体検査が適しており、すべての感染者が分かれば、感染する割合、発病する割合、重症化する割合、死亡する割合なども計算できるからです。

厚生労働省は、6月第一週に東京都、大阪府、宮城県のそれぞれ一般住民約3,000人を性・年齢区分別に無作為抽出し、7,950人の抗体検査から東京(0.1%)、大阪(0.17%)、宮城(0.03%)という抗体保有率を発表

しました。つまり、東京の人口からするとこの調査の時点では感染者が約 13,000 人いることになります。この結果をみると、新型コロナウイルスはインフルエンザや結核と比べて、飛び抜けて危険だという専門家の意見は疑問視されています。

## 2：新型コロナウイルス感染症の治療薬

新型コロナウイルスの治療薬は、とりあえず人間に投与経験のあるものから選ばれています。今回治療薬としてレムデシビルやアビガンが薬機法（旧薬事法）のもとで検討されていました。アビガンは初期の熱が下がる傾向が見られたとして認定する予定でしたが、臨床試験で有効性が見られなかったためアビガンは承認されず、各国からの報告書にばらつきがあったにもかかわらず、5月レムデシビルは承認されました。他にも重症化した場合の治療薬など複数の抗ウイルス剤が候補に挙がっています。

「レムデシビル」は  
エボラ出血熱の治療薬。点滴剤。  
異常行動、腎臓機能を低下させる  
副作用有り。治療率68%？  
タミフルを開発した  
ギリアド・サイエンシズ。



「アビガン」は  
インフルエンザの治療薬。錠剤。  
備蓄があり、製造、販売も承認済  
み。妊婦に投与した場合胎児に影  
響を与えるリスクが高い。  
富士フィルム富山化学。

## 3：ワクチンは必要？

政府は8月6日ワクチンを開発している英アストラゼネカから1億回分のワクチンの供給に合意したというニュースが入りました。現在、世界中でワクチンの研究開発が進められていますが、米・英・中国で臨床試験が始まったばかりの効果も不明なワクチンを、先進諸国が自国ファーストで莫大なお金をかけて備蓄しようとしています。しかし、製造開発した企業は副作用が出ても責任を取らないと言っています。

国内でも、国立感染症研究所と東京大医科学研究所等でワクチン開発に取り組んでいます。国立感染症研究所は年内にも臨床試験を開始する予定です。

ワクチンは健康な人に接種するものです。病気を予防するためなら、効果はもちろん、安全性が何より重要なはずですが、通常5～10年以上かける開発期間があまりに短すぎる上、臨床試験も不十分なままです。また一方で新型コロナウイルスの抗体は3か月ほどという研究発表もあります。何度も接種しなければいけないのでしょうか？感染症の拡大とともに、ワクチン接種による被害が懸念されるどころです。

とても変異が盛んなコロナ  
ウイルス…。全く効かないイ  
ンフルエンザワクチンよりも  
効くとは思えないのだけど。



急いで作っているから怖い  
よね。治験も少なく人体  
実験みたい。打ちたくない  
んだけど・・・。

今までの感染症の歴史を振り返ってみても、ワクチンで解決できる問題ではないと気づかされます。コンシューマネットの古賀真子さんは「ウイルスを取り込み、社会全体が免疫を持つことしかない」と言う視点が一番重要で、薬やワクチンで感染症を克服できるものではないということをもう一度学びなおすべきと提案されています。

この混乱の中でわたしたちは、日に日に変わる通達や情報に振り回されず、何よりも人権を大切に扱っているかなど、日常の私たちの仕事から「これって大丈夫？」と疑問を持ち、“うつる病気”としっかり向き合っていきましょう。

【今回のおすすめ文献・サイトの紹介】AnswersNews ー製薬業界で話題のニュースがよくわかるー  
新型コロナウイルスの治療薬やワクチンの開発動向がわかります。